別紙

令和4年度　学習分析事業　改善計画　三原市立第二中学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均（全国を50とする）

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均						
	本年度結果 偏差値平均	50.6	48.3	50.9	50.6	51.6	50.4
2年	前年度結果 偏差値平均	51.5	50.2	51.9	51.1	50.6	51.1
	本年度結果 偏差値平均	51	51.1	49.7	51	51.9	50.7
3年	前年度結果 偏差値平均	50.4	50.8	49.8	50.1	55.7	51.4
	本年度結果 偏差値平均	50.3	49.8	48	47.9	52.3	49.6
全体	前年度結果 偏差値平均	50.5	50.4	50.3	49.5	51.8	50.5
	本年度結果 偏差値平均	50.6	49.6	49.6	49.9	51.9	50.2

②全国学力・学習状況調査　正答率平均（第3学年対象）

教科	国語	数学	理科
前年度結果 （対県比）	66	55	
本年度結果 （対県比）	69	49	46

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて）
●国語では，情報を選び構成を考えて話すこと（44.3%）【1学年】，
古典・漢字の読み・品詞の理解(27.4%)【2学年】，
感想や考えをまとめ伝え合う(34.8%)【3学年】に課題があった。

●社会では，都道府県の名称と位置(40.8%)【1学年】，
歴史の流れと時代区分(46.4%)【2学年】，
江戸時代の産業の発展や文化(42.9%)【3学年】に課題があった。

●数学では，円の図形(32%)【1学年】，
空間図形の見取図(45%)【2学年】，
四分位範囲のデータの活用(33%)【3学年】に課題があった。

●理科では，物の溶け方と水溶液の性質(43.0%)【1学年】，
地層の積した順と土砂の粒子の大きさの関係(37.1%)【2学年】，
気象とその変化(46.9%)【3学年】に課題があった。

●英語では，日常生活の情報を聞き取ること【1学年】，
質問やアナウンスを聞き，応じる【2学年】，
まとまりのある英語を聞き取る【3学年】で全国比を下回っていた。

【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて）
●国語は，読むことの領域において，「場面の展開や登場人物の心情の変化を捉える」（51.8%）ことに課題があった。

●数学は，「1次関数の変化の割合の意味理解」(29.5%)に課題があった。

●理科は，粒子の領域において，「化学変化とエネルギーの知識技能を関連付けて分析し解釈する」(19.6%)ことに課題があった。

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　（何を，どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 〇継続的に，朝ドリル，小テスト，演習問題を行い，継続的な基礎学力向上を図る。 〇「本質的な問い」を意識し，生徒の主体的な学びにつながるような発問や言語活動を設定する。	①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案 ②学校経営会議において改善計画の共有 ③全体研修による目指す授業の共有 ④管理職による授業参観実施 ⑤全国学力・学習状況調査の誤答分析による実施把握 ⑥全教員によるNRTや全国学力調査の誤答分析による実態把握をし，課題のある問題について，どのように取り組むか，単元構想を計画し，実施する。 ⑦NRTのアシストシートを活用し，課題のある問題の類似問題の実施。 ⑧今年度の研究の成果と課題を振り返り，教務・研究部で次年度の研究テーマや取り組みの方向性を決定。 ※「思考力・判断力・表現力」の育成，及び，ICT機器の効果的な活用について，引き続き取り組む。	①6月 ②6月～7月 ③4月 ④6月以降随時 ⑤6月～7月 ⑥8月～9月 ⑦9月以降随時 ⑧令和5年度4月	・小テスト，単元テスト，定期テストの値 ・作成した類似問題や課題として挙げられた問題の正答率が目標値以上
【学級・学習集団づくり】 〇全学級において，一人ひとりの役割を与え，掲示し，自己有用感を持たせる。 〇NRT/QUの結果をもとに必要に応じて，個人面談の実施 〇学級や学年の実態に合わせ，ルールの確立や人間関係づくり（ピア学習など）を行う。	①QUの分析による実態把握と改善計画の立案 ②教務・研究部の会議において各学級の実態と改善計画の共有と実践 ③教科担当を中心に計画をもとに実践・分析・改善 ④今年度の課題と成果を振り返り，次年度の取り組みの方向性を決定	①6月 ②7月 ③随時 ④3月～令和5年度4月	・QU2回目の一次支援の数値の向上（各学級で1回目以上）